

認定心理士の会から

新しい学びと研究の様式について

今回は、現在、私たちに求められております「新しい生活様式」の中で、私たちが継続的に学び、研究していくための、いわば「新しい学びと研究の様式」について、少し考えてみたいと思います。

大きな教室に大勢で集まって、講師が参加者に向かってマイクで話すという対面形式のセミナーなどは、現在の状況では、主催する側も、参加者の方も不安を感じる人が多いかもしれません。しかしながら、このような状況でも、インターネットをうまく活用すれば、学びの機会はたくさんありそうです。例えば、認定心理士の会では、今年度、運営委員や各支部の幹事の方々が、オンラインのイベントを企画し、実施してくださっております。

また、日本心理学会をはじめとして、国内外のさまざまな心理学関連の学会が、オンライン

で年次大会を開催しております。私自身も今年度、いくつかの学会に参加させていただいております。オンラインでは、リアルタイムの質疑応答がやりづらいなどのデメリットもないわけではないのですが、移動や宿泊の費用と時間をかけずに学会に出席でき、著名な研究者の講演を聴けるという大きな利点もあります。本会の会員の皆さまも、この機会に、専門学会に参加して、研究者たちの講演やポスター発表を聞いてみるのはいかがでしょうか？

また、時間がたっぷりある方にお勧めなのが、心理学に関連した有名な古典などに挑戦することです。インターネット上では、著者が亡くなってから一定の年数が経過している書籍を、無料で読めることがあるようです。インターネットなどを活用して、新しい学びのスタイルを探求しながら、心理学の学びと研究を継続してまいりましょう。

(認定心理士の会運営委員会委員 佐藤俊彦)

若手の会から

企画シンポジウムを終えて

日本心理学会若手の会では、第84回大会にて、「若手が聞きたい再現可能性問題の現状とこれから」「若手のための進路相談会」「学部生・高校生プレゼンバトル」の三つの企画シンポジウムを行いました。私が主に関わった企画を通して感じたことを述べたいと思います。

第84回大会における企画の実施が決定するまで、若手の会では何度もミーティングやメール等を重ねました。新型コロナウイルスの影響もあり、2020年3月に予定されていた異分野間協働懇話会も中止となり、幹事の方々と特定のテーマについてお話をすることはこの企画ミーティングが初めてでした。若手の会は、心理学に関わる若手間で、情報交換を行いながら、ネットワークを構築し、今後の領域横断的な研究を進めていく役割を担っていることから、今回の企画ミーティングのような、普段の研究領域とは多少違うテーマについて同じ志を持つ

方々と議論できたことは非常に光栄でした。

一方、こういった企画ミーティングや共同研究活動、共同での執筆作業など、もっと幹事間での協働が増えると良いなと思いました。しかし、幹事が入れ替わり制であること、これまでに実施してきた活動を継続すること、さらに一番の言い訳ですが、自身の研究活動や溜まったデータの借金返済（論文化）により、新しい活動を開始できない、等の理由から、実際にアクションを起こすことができていない自分があります。

自分自身の幹事の任期も1年を切りました。素晴らしいメンバーと何かを形にして、幹事の任期を終えたいと思います。

なお、大会当日は、300名近い方に「若手が聞きたい再現可能性の現状とこれから」のシンポジウムにご参加いただきました。学会を多少なりとも盛り上げ、さらには今後の心理学の発展に少しでも貢献できたことは、満足のいく結果であったと思っています。

(若手の会幹事 横光健吾)